

# 食育のための農林漁業体験学習 実践マニュアル

～小学校で農林漁業体験学習に取り組むために～



2022年3月改訂

愛知県



## 改訂にあたって

高度な情報化と経済発展の中、少子高齢化、エネルギーや食料の需要増加、地域間格差など、現代社会は、多くの課題を抱えています。2020年には新型コロナウイルス感染症が拡大し、「新しい生活様式」が求められるなど、社会は大きな変革に直面しています。

そうした中、県民運動として食育を推進し、健康で活力ある社会の実現を目指す「あいち食育いきいきプラン2025」（第4次計画 2021～2025年度）が始動しました。

食育の推進にあたり、農林漁業に関する体験活動は、食への感謝の心を醸成する上で重要な取組です。子どもたちは、体験を通して、生産現場への関心を深めたり、食が自然の恵みと生産者など多くの人々によって支えられていることに実感をもって理解したりしていきます。さらに、学校教育法第31条には、「教育指導を行うに当たり、児童の体験的な学習活動（中略）の充実に努めるものとする。」と規定されています。

愛知県では、各学校が周辺の環境や指導方針等に応じて無理なく農林漁業体験学習に取り組めるよう、実践の具体的な手引を示すとともに、参考となる実践事例を盛り込んだ『食育のための農林漁業体験学習実践マニュアル～小学校で農林漁業体験学習に取り組むために～』を平成25年3月に初版発行し、継続して学校の活動の推進を支えてきました。平成25年当時と比較すると、農林漁業体験を実践する県内の学校の割合は、これまで増加傾向にありますが、このマニュアルが少しでも学校現場のお役に立っているとしたら望外の喜びです。

その一方で、平成25年の初版発行から9年が経過し、国の「食に関する指導の手引」の第二次改訂版（平成31年3月）が公表され、令和2年度より、小学校学習指導要領（平成29年告示）が全面実施されました。本書は、それらを踏まえ、参考事例として、初版の優れた農林漁業体験活動の実践事例は再掲しつつ、初版を改訂したものです。

体験学習の実施については、学習指導要領に、「特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康保持増進に関する指導については、体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。（総則）」と明示されました。今後も、一層、学校教育全体を通して、家庭や地域、関係機関と連携した食育の推進が大切であると考えます。（「あいちの教育ビジョン2025」）。

子どもたちが生涯にわたって健康・安全で健やかに生きるための礎を培い、たくましく、その豊かな創造性と人間性を育ていけるよう、本マニュアルを農林漁業体験活動の推進にご活用いただければ幸いです。

2022年3月

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

# 目 次

## 第1部 農林漁業体験学習実践の手引

1 小学校における農林漁業体験学習導入の意義	
（1）農林漁業体験学習とは	4
（2）食育や学校教育における農林漁業体験学習の位置付け	5
（3）農林漁業体験学習導入のねらいと食に関する指導の目標	7
（4）県内の農林漁業体験学習の実施状況	8
（5）農林漁業体験学習の現状と課題	9
2 体験学習導入の準備	
（1）学校の環境に応じた体験の場の確保	11
（2）校内の推進体制の整備	12
（3）地域の支援体制の活用	13
3 体験学習の実際	
（1）学習指導要領との関連付け	15
（2）指導計画の作成	26
（3）学習時の注意事項	29
（4）全体計画・学習指導案の作成	32
4 参考文献	
（1）書籍	41
（2）ホームページ	41

## 第2部 実践事例集

1 事例の分類	43
2 事例集	
（1）瀬戸市立西陵小学校（米や野菜づくりに加え酪農等も体験）	45
（2）稲沢市立坂田小学校（校内の畑で野菜を栽培し給食にも活用）	51
（3）愛西市立立田北部小学校（水郷地帯で水産体験）	53
（4）知多市立佐布里小学校（地域特産の梅と米づくり体験）	56
（5）西尾市立鶴城小学校（町の大規模校でも米や野菜づくり）	60
（6）田原市立福江小学校（農業体験に加えて海苔づくりも体験）	63
（7）新城市立舟着小学校（米や野菜づくりの他にぶどうも栽培）	68